

誰もが住み慣れた地域で
自分らしく暮らし続けるために

生活支援体制 整備事業



札幌市では、平成 28 年度から厚別区・北区・豊平区の 3 区に「生活支援コーディネーター」を配置し、「生活支援体制整備事業」を実施しており、社会福祉協議会がこの事業を受託しています。

**人口減少・超高齢社会
高齢化率は今後ますます
上昇していきます**

2017 年 1 月 1 日現在、厚別区の高齢化率は 28.7%、2025 年には 36.6% まで上昇すると見込まれています。
(札幌市住民基本台帳人口、国立社会保障・人口問題研究所推計値)

**高齢になっても、今の地域で
住み続けたいと考える人が多い**

札幌市の高齢者のうち、実に 80% 以上の方が、現在住んでいる地域に住み続けたいと思っています。(札幌市高齢社会に関する意識調査)

**高齢になって始めにできなくなってくるのは
日常生活上の家事やちょっとしたこと**

例えば、要支援 1 の方であれば、歩行や排便是ほぼ 100% 自立していますが、買い物自立している人は 40% 程度です。(厚生労働省資料)
このような方が地域で暮らしていくために必要なのは、日常生活でのちょっとしたお手伝い=生活支援です。

生活支援が必要になっても、介護保険制度のホームヘルパーに来てもらえば大丈夫？

**介護人材の不足が
深刻な社会問題と
なっています**

今のまま推移すると、2025 年には北海道で 1.2 万人、全国で 38 万人、介護人材が不足すると見込まれています。(厚生労働省 2025 年に向けた介護人材にかかる需給推計)
一緒に買い物に行ったり、ごみ出しをする程度であれば、ヘルパーなど介護のプロが遠くから来なくても、身近な住民同士で支え合うことができないでしょうか？

**地域には、多くの力(資源)があります。皆さん一人一人も、その「力」です。
それぞれが「できること」を寄せ合えば、誰もが暮らしやすいまちになるはず！**

生活支援コーディネーターは、地域の様々な力(資源)を把握し調整して、地域で高齢者が安心して暮らしていける仕組みを作っていくお手伝いをします。皆さんの地域には、どのような困りごとを抱えた方がいるのでしょうか？どのような支え合いが必要でしょうか。

地域住民・ボランティア・町内会・福まち・民生委員・学校・医療・老人クラブ・社会福祉法人・行政・NPO・企業・地域包括支援センター・介護予防センター

みんなで一緒に、この「まち」のことを考えていきませんか？

支え合いが進んでいけば、こんなことも

**元気な高齢者が、地域活動に
参加することは、その人にとって何よりの介護予防**

「高齢者=支えられる人」ではないはず。知識や経験豊かな高齢の方が、地域の中で、できることを、できる範囲で続けていくことは、地域にとって貴重な「力」となり、それと同時に、その人にとっては「社会参加」、何よりの「介護予防」にもなります。

**日頃から「支え合える地域」は、
災害や犯罪にも強い地域**

日頃の支え合いは、いざ災害が起こったときの助け合いにもつながりますし、地域に向けられる住民の関心は犯罪を抑止する力にもなり得ます。住民がまちや人を大切に思い、少しの行動を積み重ねること、これこそが「まちづくり」なのです。

生活支援体制整備事業では、支え合いの地域づくりを進めていきます！